

平成 30 年 3 月 7 日

助成事業実施報告書

団体名 Artversal(アートヴァーサル)

代表者・役職名 氏名 渡邊 涼

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

Acrylic Soul (アクリリック ソウル)

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

アートを紹介して社会問題を解決する方法を模索し、試し、紹介し、仲間を増やすことを目的とし、2015年有志で設立した任意団体。地域の各種企業や団体、行政機関と積極的に交流や連携を図り、多くの人たちが様々な利益や発見、繋がりを享受できる活動を目指す。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

近年増加傾向の発達障害や適応障害を持つ子供達。彼らの将来に対してご家族の心配。長い不況で苦勞されている多摩に多い高い技術力を持つ小規模製造業。日米ハーフでシンガポール在住 13 歳自閉症の画家 Sol(そうる)君と立川のアクリル板印刷の泰興物産株式会社様との出会い。彼のマーカーペンを使った作風は、アクリル板印刷の良さを最大限に活かせること、エイブルアーティストにありがちな突然制作をやめてしまう懸念に対し、原画を手元に残し、アクリル板に印刷した作品での理想的なプロモーション等、バラバラになっていたパズルのピースがびたりとはまりました。さらに海外展示サポート業の一般社団法人アートレイツ様よりアドバイス、泰興物産様より制作技術のご指導等ご協力いただけたることとなり、エイブルアート(障がい者芸術)と製造業のコラボレーションとなる展示の開催を企画しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2018年2月11日(日)と12(月・祝日)、創業支援施設「日野市多摩平の森産業連携センター PlanT」にて展示会を開催しました。自閉症の少年画家 Sol(そうる)君の絵をアクリル板に印刷した14点の作品と原画を展示。さらにユニバーサルデザインを取り入れたゲームで遊べるコーナーや Sol 君の作品を使った工作コーナーを設置。お子様連れの方もゆっくりお過ごしいただける工夫をしました。またアートへの敷居の高さを減らすため、ご来場者に展示作品に投票をしてもらい、「わかる、わからない」ではなく「どれが好きか」という視点でアートへの親近感を高める演出や、お茶を用意して滞在時間を長くし、アートの中で人のおしゃべりや繋がりが生まれる仕掛けをしました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

日野市の多大なご協力で市内の各種福祉施設等、様々な場所にフライヤーを設置して頂き、東京新聞の取材(2/12朝刊多摩欄掲載)、2日間で120名の来場者がありました。今回の展示作品を欲しいという方、アクリル板印刷を使って作品制作を希望された作家への泰興物産様紹介、一般社団法人 Artrates 様より引き続き Sol 君のプロモーションご協力のお約束。また Sol 君のご家族やご友人は、改めて Sol 君の作品の高い芸術性に気づき、お住まいのシンガポールで展示開催を具体的に検討することに。普段より地域活動をされている方も多くご来場くださり、エイブルアートを対話の中で楽しむことが、コミュニティーデザインの人脈で生かせることに気づけたというお言葉や、古民家活用したコミュニティープレイスで Sol 君の展示を絡めてアートを題材にしたイベントをされたいというご提案も頂き、難しいとされている地域活動へのアート活用の導入に成功しました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

2018年は今回制作した作品と今回の展示で得た地域活動へのアート導入のノウハウ使って、巡回展を1~2回程度開催したいです。ご希望の方には受注で作品をお譲りし、今後の活動資金と考えております。2019年はSol君以外、今回立川アールブリュット様よりご紹介いただいた作家などの作品も徐々に手掛け、クラウドファンディング等を利用し新作を制作。日本で1回、シンガポールで1回展示を開催したいです。ひとつひとつ丁寧に無理なく楽しみながら活動を継続し、仲間を増やし、可能性を広げていきたいです。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし





